

令和 5 年 6 月 16 日現在

機関番号：15501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2022

課題番号：20K02038

研究課題名(和文) 公立病院改革の課題 - 公立病院以外の病院との比較より -

研究課題名(英文) Challenges of Public Hospital Reform: Comparison with Non-Public Hospitals

研究代表者

中田 範夫 (NAKADA, NORIO)

山口大学・経済学部・教授(特命)

研究者番号：90146142

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 900,000円

研究成果の概要(和文)：平成28年に行った公立病院に対する調査結果、および平成29年公立病院を除く全ての病院種類に対する調査結果を比較し、そこから公立病院の非効率性についての原因を明らかにすることが研究の目的である。

令和2年度の研究では経営管理を担当する組織、内部環境およびマネジメント手法が医業費用収益率、在院日数および病床稼働率に対してどのような影響を及ぼしているかを明らかにした。令和3年度の研究は、「新型コロナウイルス感染症感染下における病院経営 - 地方独立行政法人山口県立病院機構のケース - 」という論文を作成したことである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまでの我が国及び諸外国の研究を見ると、病院におけるマネジメント手法の導入が病院の財務・非財務業績に影響を及ぼしているという研究は見られる。しかし、病院の組織形態を分類して、組織形態・内部環境・マネジメント手法 - 財務・非財務業績という関係を研究している文献は見られない。そこで、今回の研究によってそれらの関係を明らかにした。

公立病院と公立病院以外のデータを比較・分析することにより、その相違を明らかにすることができた。

研究成果の概要(英文)：It is the purpose of research that compare the results of an investigation to the government hospital which carried out in Heisei 28, and the results of an investigation to all the hospital kinds except the Heisei 29 government hospital, and I am etiological from there about the inefficiency of a government hospital.

In research of Reiwa in the 2 fiscal year, I showed clearly what kind of influence the organization which takes charge of business management, internal environment, and the management technique have had to a medical profession expense earning rate, hospital days, and a hospital bed occupancy rate. Research of Reiwa in the 3 fiscal year creates the paper "the case of the hospital management-local incorporated administrative agency Yamaguchi prefectural hospital mechanism under new style coronavirus infection".

研究分野：管理会計論、原価計算論

キーワード：経営管理組織 電子カルテ 看護配置 DPC BSC 新型コロナウイルス感染症 財務業績 非財務業績

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

- (1) 公立病院の財務状況(損益計算書上の損益状況)がそれ以外の病院種類の財務状況と比較して良くないというのは周知の事実であること。
- (2) 令和元年度9月に厚生労働省は全国で424病院の公立病院及び公的病院名を公表し(後に440病院程度に修正)これらの病院に対して改革・再編を要求したこと。

### 2. 研究の目的

- (1) これまでの我が国及び諸外国の研究を見るとき、病院におけるマネジメント手法の導入が病院の財務・非財務業績に影響を及ぼしているという研究は見られる。しかし、病院の組織形態を分類して、組織形態・内部環境・マネジメント手法 - 財務・非財務業績という関係を研究している文献は見られない。そこで、今回の研究目的は上記の関係を明らかにすることを目的とする。
- (2) 今回の研究目的はこれまで分析の対象を公立病院に限定していたことに対して、新たに公立病院以外の全ての病院種類を対象に加えて、上記(1)のことは行うこと、その結果として公立病院と公立病院以外の分析結果を比較し、その相違を明らかにし、並びにその相違をヒントにして公立病院の改革・再編を行うべきことを提案することにある。

### 3. 研究の方法

- (1) 平成29年公立病院を除く全ての病院種類に対する郵送調査を実施し、その調査結果を公表した。次に、平成28年に行った公立病院に対する調査結果と平成29年度に実施した調査結果を比較し、その違いを明らかにした。
- (2) 厚生労働省が2019年9月に発表した全国424病院(再編統合を要する公立病院・公的病院。後に440病院程度に修正)に対して令和5年2月から3月にかけて郵送調査を実施した

### 4. 研究成果

- (1) 経営管理を担当する組織、内部環境(コンサルタント、電子カルテ、看護配置、DPCの4つ)およびマネジメント手法(BSCと原価計算の2つ)が医業費用収益率、在院日数および病床稼働率に対してどのような影響を及ぼしているかを明らかにした。主な設問項目についてその比較結果を記載する。経営管理を担当する組織について、公立病院では72.4%そして非公立病院では53.5%が設置している。電子カルテの導入に関しては、公立病院では71.2%そして非公立病院では61.1%の利用状況である。一般病床に対する7対1看護配置について、公立病院では37.9%、非公立病院では44.5%である。DPCの採用については、公立病院43.6%、非公立病院47.0%である。BSCの導入に関して、公立病院では11.5%、非公立病院では17.7%である。原価計算システムの導入に関して、導入しているのは、公立病院で11.1%、非公立病院で11.6%である。平成25年度と平成27年度決算利益がどのように変化したかを聞いている。公立病院では27.6%、非公立病院では34.9%が「増大した」と回答している。平成27年度の医業費用収益率について問うている。公立病院では83.34%、非公立病院では100.17%である。非財務的成果について質問している。まず、平均在院日数については一般病床と精神病床とに分けているが、一般病床に関しては公立病院では18.38日、非公立病院では17.57日であり、次に精神病床では公立病院では132.38日、非公立病院では178.52日である。同様に病床稼働率につい

では、一般 病床に関しては公立病院では 74.60%、非公立病院では 82.47%である。精神病床に関しては、公立病院で 68.63%、非公立病院では 82.06%である。

(2)「新型コロナウイルス感染症感染下における病院経営 - 地方独立行政法人山口県立病院機構のケース - 」という論文を作成した(この論文は、報告書として作成されたうちの第 2 章分である)。山口県立病院は自治体病院の中では「極めて良好な財務・非財務業績」を示している病院の代表として、平成 25 年度から令和 2 年度までの財務・非財務業績を表示し、そしてその中でも特に令和元年度と令和 2 年度のそれらを表示し、新型コロナウイルス感染症が病院経営に対してどのような影響を与えたかを明らかにした。その結果、財務業績については次のことが明らかとなった。山口県立病院は令和 2 年度のコロナ禍においてこれまでの歴史において最大の 当期純利益を示したこと。平成 23 年度から独立行政法人に組織替えしたが、これ以降今日まで平成 27 年度を除いて当期純利益がプラスであること(平成 27 年度 については退職給与引当金の不足に対して 6 億円を超える一括計上をしている)。県立病院を「総合医療センター」と「こころの医療センター」に区分しさらに詳細な分析を行ったこと。

(3)厚生労働省が 2019 年 9 月に発表した全国 424 病院(再編統合を要する 公立病院・公的病院。後に 440 病院程度に修正)に対して郵送調査を行った。現在論文として取りまとめ中である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 中田 範夫	4. 巻 69
2. 論文標題 公立病院と非公立病院の比較 - 基礎データの観点から -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 山口経済学雑誌	6. 最初と最後の頁 1 - 46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

新型コロナウイルス感染症感染下における病院経営 - 地方独立行政法人山口県立病院機構のケース -、報告書『新型コロナウイルス感染症流行下における医療。福祉施設の経営実態と今後について：山口県の事例から』の第2章分、山口大学 大学院経済学研究科、医療・福祉経営コース運営委員会、2022年2月。

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------